

Newsletter

NPO法人

日本こどものための委員会

E-mail: info@cfc-j.org

U R L : <http://www.cfc-j.org/>

「CFC」について学び・考え・語る会」報告

広がるセカンドステップ

理事長 渡辺俊一

年1回の理事・監事・指導講師・事務局員等による勉強会が昨年12月27日、東京で開かれました。以下に、当日議論になったポイントをご報告します。本会員である皆さんが「セカンドステップ」の実践活動を進めるためのご参考にしていただくと幸いです。

まず強調されたのは、われわれの団体がNPO法人であるという点です。その行動原則は、「新しい公共」を自由に創り出すボランティア精神です。21世紀の市民社会建設に向けて、私たちは歴史の最先端を進んでいることを再確認しました。

本会の原点は、NPO法人の憲法ともいえるべき「定款」です。そこで定款をじっくり勉強し、民主的で効率的な経営のあり方を十分に語りあいました。私たちの活動は当面、アメリカのCommittee for Children(CFC)が作成した「セカンドステップ」に集中しており、そのポイントはCFCとの契約の誠意ある遵守です。

セカンドステップの普及について私たちは独占的な権限を受けている と同時に、高い水準でこれを普及することを義務づけられています。

・・・そのために具体的に現在行っている活動と今後行いたいと考えていることを以下に示します。

研修会の質の向上 現在年5回の研修会を開催しています。そのため、教材の出版、講師・ファシリテーターの選定など十分に留意しています。今夏も、CFCから講師を招いて「本場式の研修会」を東京と大阪で開きます。研修会は、だいぶ経験を積んではきましたが、しかしまだまだ改善の余地があると思います。指導員の資格審査はようやく軌道に乗りましたが、研修会のあとのフォローアップを制度化することも今後の課題です。

会員サービス 会員サービスの充実を求める声が大きくなっています。これに応えるため交流会なども開催する必要があります。さらに各地域での会員の相互活動を促進する仕掛けも必要です。会員と本部との連絡を密にするため、メール、メールマガジン、WEBなどの活用により事務コストの軽減を図っています。

講師派遣 セカンドステップについての講演会は、呼びがあれば、全国どこへも講師を派遣します。その他、小学校等子ども達へのセカンドステップ実践についても、講師を派遣する試みを始めました。(なお、研修会・講演会の講師については、指導講師など有資格者に限定して質の向上を目指していますので、それ以外の方の行動はご遠慮いただいております。)

「1日研修会」と「親子塾」 今年は、事業拡大へ向けて前進します。まず「1日研修会」です。これは、地元地域からの要請に応じて、1日でともかくセカンドステップを実践できるようにするための「出前」研修会です。むろん正規の2日間の研修会との整合性をとるため、いろいろな制約はありますが、特に地方で積極的に要請を出していただければ、応じたいと思います。また、最近では「こどもの問題」は実は「親の問題」だ、と考えられる事件が多発しています。そこで親子一緒にセカンドステップを学ぶ場としての「親子塾」もスタートしたいと思います。これも地元地域で、主体的に活動される市民の方からのご提案を期待しています。ご関心のある方は、事務局までご連絡をくださると幸いです。

将来展望 今年は、目下申請中の助成金があたれば、セカンドステップ実践の効果測定など、研究面へも着手したいと思います。目を海外に転ずれば、5月にはストックホルムで第4回「セカンドステップ国際会議」が開催されます。いずれ数年以内に、日本でこの会議を開催することになるでしょう。特に私たちが重荷を負っているのは、韓国・台湾・中国など東アジアでのセカンドステップの普及です。私たちの働きはこれら国際的な市民活動の一環でもあるので

どうか、今年も一緒に、日本の子ども達の幸せのために前進しましょう。現場からのいろいろなご意見・ご希望がありましたら、どうぞ事務局へお知らせください。心からお待ちしております。

【事務局】〒156 0043
東京都世田谷区松5-3-15-201
TEL 03-5329-1461
FAX 03-5329-1491

「うっかり」と「わざと」 ～長丁場のレッスンの中で～

三好布生加

〈「うっかりとわざと」のレッスン〉

第1章「相互の理解」のレッスン8は「うっかりとわざと」について学ぶレッスンです。前を見ないで走っている子が、友だちにぶつかりケガをさせてしまう写真から、「うっかりとわざと」の区別を知り、どうしたらよいのかを考えます。

ロールプレイでは、以下の3つを練習します。

「うっかりだったんだ」と状況を説明する

「ごめんなさい」と謝る

自分にできるよいことを考え、実行する

の謝り方として、「ごめんなさい!ごめんなさい!!ごめんなさい!!!」「どうして許してくれないの!!!!」と怒ったり泣くモデルを見せると、「ごめんなさいで済んだら警察はいらないよ」と笑う子や、「心がこもってない!!」と真剣に言う子など様々です。「心がこもっているってどんな感じかな?見せてくれる?」とモデルをお願いすることもあります。そうすると「私も」と手が上がり、いろいろな「ごめんね」が出てきます。「どんな風に言われたら許せそう?」に真剣になります。

また、小学校高学年の子どもに導入しているため、に重点をおいています。謝るだけではなく、自分にできることを実行することは謝るスキルの一つです。「何ができる?」と聞くと、「手当をする」「保健室に連れて行く」などの意見の他に、「救急車を呼ぶ」という意見も出てきます。「写真をよく見よう。救急車を呼ぶ位のケガ?」と投げかけつつも、救急車を呼ぶロールプレイを行う時もあります。救急救命の講習を受けた子は特に真剣です。例えのロールプレイ以外にも、「次はこういう場面がやりたい」と積極的に意見が出ます。「自分ならどうして欲しいのか、相手はどうして欲しいのかを考えること」、そして「自分にできることを考え」「実行すること」が大切だと伝えていきます。自分で手当ができなくても、友だちに助けを求めること、声を出して大人を呼ぶことも「できること」なのです。

〈二つの効果〉

ソーシャルスキルを身につけることで、二つの効果が期待できます。一つは、対人関係に難しさを感じている場合、スキルを身につけることによって、適応状態を改善することができること(治療効果)です。二つには、これから先起こりうる問題に対しての予防策になること(予防効果)です。自然にスキルを身につけている子にとっても、今後出会う様々な対人的葛藤やストレスに対して、適切に対処できる可能性が増すはずです。どちらの子にとってもスキルを身につけることは大切なことです。

〈実践の工夫〉

上の事例の は、高学年に導入していることもあり、第2章を先取りしたものです。1週間に1回だと7ヶ月かかる長丁場ですので、実践者に工夫が必要です。そして子ども側の動機づけも大切です。「仲間に入りたい」と思っている子にとって「これは役に立つぞ」と思えるプログラムかどうかです。そのため、子どもがすぐに使える「スキル」も伝えています。「おもしろそうだね」と自分の気持ちを伝え、「入れて」と言うことは大切なことです。それ以外にも、「遊びがはじまる前にその場にいること」も大切でしょう。遊びの途中で入れてもらうのは難しいことで、じゃんけんやチーム分けする時からその場にいる方が簡単です。

〈自分にできることはたくさんある〉

私はこのセカンドステップを通じて、楽しみながらもスキルを身につけ、そして「自分にできることはたくさんある」と感じられるよう、子どもたちに関わっていかれたらと思っています。

今、私たちにできること

かがの保育園 氏家秀樹

近年、不登校に引きこもり、いじめに学級崩壊、また、耳を疑いたくなるような少年犯罪や幼児虐待など、子ども達を取り巻く環境は決してよいものとは言えないような世の中になってきました。

そのような中、その子ども達を何とか救えないものか、少しでも手助けできないものかと考えていた中で知り合ったのがセカンドステップでした。幸い、研修を受けさせていただけるチャンスもあり、園にセカンドステップを導入できたのが3年前です。その3年間の取り組みを書きたいと思います。

1年目：見て、聴いて、学ぶ年 ～手探りのレッスン開始

直接研修を受けたり、経験者のパネル進行を見て学んだりしながら、保育の中で展開しました。しかし、失敗と葛藤の中、「これでいいのだろうか？」と自問自答を繰り返し、手探りで行なってきた一年ではありましたが、レッスンを重ねるごとに、「これかもしれない！」という少しの希望も見えた年でもありました。

2年目：試みの中で学ぶ年 ～パネルだけでは不十分

この年は自分達でパネルを行ないました。内容を実際のパネルからさらに噛み砕いてみたり、子どもの反応を見ながら、人数や場所、時間など1番適切なのはどれか何度も試したり、その中で子ども達に合ったスタイルを見つけることができた年でありましたが、普段の保育の中で、『今はセカンドステップの時間じゃないじゃん！』と言われ、『セカンドステップは別物』と子ども達に捉えられることもあり、いかに普段の保育で“セカンドステップの考えを取り入れた行動”が大切かを痛感させられる年でもありました。

3年目：反省の中でのスタート ～普段の保育の中で手応え

前年度までの反省から、『パネルも大切だけど、普段の保育の中でいかに展開できるかが大切』ということを実践していこうと、絵や作り物で分かりやすく子ども達に考え方を説明したり、普段の生活でもセカンドステップの考え方や対応を多く取り入れたりと『セカンドステップ＝普段の保育』に近づけるようにしていき、現在も続けています。

そうすることで子ども達は、自然に生活の中で使っている感じがします。友達同士のトラブルがあったときに、「今、 されて、とっても嫌な気持ちだったよ。」と自分の気持ちを表現したり、年長組が小さなクラスのお友達に対して「～してみたら？」「こんなのはどう？」と話したりしています。大きいお友達から教わり、後々パネルで行なうという理想に少し近づいた気がします。

～家庭への発信に課題

また、何度か保護者に対しても、公開レッスンなども行なってきましたが、興味を持って参加してくれる家庭は少なく、今後どのようにして家庭に発信していくのか大きな課題になっています。

～大人が変わらなければ何も変わらない

セカンドステップを取り入れることにより、人格形成の中でもっとも大切であろうとされている幼少時期を預かる私たち保育士は、子どもたち自身がこの教育プログラムをマスターすることで、将来相手の気持ちをくみ取り判断し、感情をコントロールできる大人に成長して欲しいと願っております。そのためには、私たち(大人)自身が日常生活の場で一つの環境としてスキルを理解し、展開していきたいと考えています。大人が変わらなければ何も変わらないということを、今、取り組み3年目にして大きく気づかされたような気がします。

お知らせとお願い

理事会から (理事長 渡辺俊一)

《「第1回勉強会」が開かれました》・・・2003年12月27日(日)代田区民センターで、名
が出席し、建設的な意見が交換されました。詳細は、1ページ参照。

《次回セカンドステップ指導員研修会のお知らせ》・・・第8回セカンドステップ指導員研修
会を2月28(土)29日(日)に国立オリンピック記念総合センターで開催します。応募多数のため、申し込み受付をうち切らせていただきました。なお5月、8月の応募をすでに開始しています。

《今後のセカンドステップ指導員研修会の予定》・・・次のとおり開催の予定です。

【2004年】

- ☺ 5月22日(土)23日(日)
- ☺ 7月31日(土)8月1日(日)
- ☺ 8月7日(土)8日(日)
- ☺ 11月13日(土)14日(日)

8月はアメリカ CFC のマスタートレーナ
ー、ローリー・ベーカー氏による研修を
行います。

8月7日8日は大阪で開催する予定です。

《新たに5名の指導講師》・・・指導講師に金子歌子さん、木村秀さん、山田もも子さん、宮崎
昭さん、三好布生加(補)さんが新たに加わりこれで9名となりました。

《4-8才用「セカンドステップ」普及版を発行しました》・・・普及版教材は31,500円です。
回 レッスンカードは、A3版に縮小し、歌のテープはCDにしました。

事務局から (事務局長 溝淵雅章)



《セカンドステップが新聞等で紹介されました》・・・1月 日付「神戸新
聞」(刊)、「キレイな心を育てる」と題して「セカンドステップ」の記事が掲載されました。更に「ゆいまーる」コミュニティーネットワーク協会
21号に「連載セカンドステップ：キレイな子どもを育てる教育プログラム」
が紹介され、ぎょうせい出版「学校で使えるカウンセリング」シリーズに「ク
ラスの荒れを防ぐ」と題して掲載されました。また、 月 日付「AERA」
にも掲載される予定です。

《メールマガジンを開設しました》・・・メールアドレスを変更、新設された方、不参加希望
者は、事務局にお知らせください。また、住所、電話を変更された方も事務局までご連絡くだ
さい。

《英語の翻訳をしてくださる方を募集しています》・・・お手伝いいただける方は、事務局ま
でご連絡ください。

《今年度の年会費の振り込みをお願いします》

会員の皆様に今期(2003年9月～2004年8月)
の会費をお納めいただきたく、お願い申しあげ
ます。賛助会員の方は3,000円、正会員の方は
5,000円を請求させていただいております。振込
みをよろしくお願い申し上げます。前年度分が
まだの方は今年度分と一緒にお願いします。す
でにお支払済みの場合は行き違いをお許しくだ
さい。

銀行振込口座

日本こどものための委員会
UFJ銀行(旧三和銀行)
東松原特別出張所
普通預金 3688724

郵便振替口座

NPO法人日本こどものための委員会
10080-98287261

(編集 広報部)

